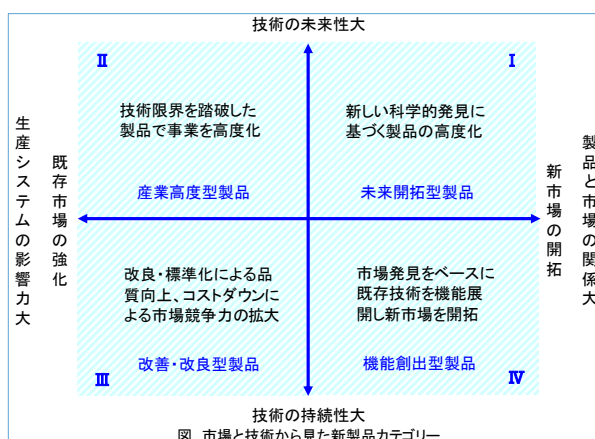


製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
— 新規テーマ創出と新たなチャレンジ —

株式会社ジョンクエルコンサルティング
代表取締役 落合 以臣

2012年もいよいよ終盤を迎えて、来年向けの新たな展開の立案が期待される時期にさしかかりました。11月号では、来年に向けての製品開発における新規テーマ創出の考え方について、ご参考になるように述べたいと思います。

右図は、新規テーマの位置づけを技術と市場との関連から表したものです。横軸に既存市場から新市場へ、縦軸に現在保有する技術から将来有望な技術への発展を示し、第Ⅰ象限を未来開拓型製品、Ⅱ象限を産業高度型製品、Ⅲ象限を改善・改良型製品、Ⅳ象限を機能創出型製品と名付けています。ほとんどの企業では、Ⅲ象限を中心に売上げの95%を確保していると言っても過言ではないでしょう。ところが、現代のように社会構造が複雑化している状況下では、改善・改良型製品では大きな市場拡大を望むことが難しいので、Ⅱ象限、Ⅳ象限へと領域を広げている企業が多いと言えます。Ⅰ象限は技術、市場ともに未知な部分が多いので、どうしても敬遠されがちです。また、この領域を支える技術には



Only One となるものが必要となります。Only One を目指す技術は、匠の技をコア技術とし製品及び製造ノウハウをブラックボックス化することによって、市場を長く占有できると言われていますが、売上の5%にも満たないし技術開発の難易度も高く市場も未踏の地を歩むこととなります。しかしながら、企業というより我々が住む日本にとって必要なことは、新たな世界へ挑戦していく強い姿勢を今一度持つことが、世界から期待されているのではないでしょうか。

今後、製品開発におけるフロント・エンド・ローディングを実践していく中で、今一度原点を見直して、リスクを恐れず未知との遭遇を期待して粛々と開発を進めることも必要ではないでしょうか。この JQ International Review が、愛読される方の背中を押すことができれば幸いです。